

観音

世界に開く窓 欧州のアンサンブル

①アンサンブル・ルシェルシュ来日公演

2023

2/11 sat.

18:30開場
19:00-

東京オペラシティ リサイタルホール

②LAPSアンサンブル来日公演

2023

3/2 thu.

18:30開場
19:00-

豊中市立文化芸術センター小ホール

ご挨拶

特定非営利活動法人日本現代音楽協会
理事長

近藤 讓

Jo KONDO

本日は、演奏会にお運び下さり、誠に有難うございます。

この「世界に開く窓」のシリーズは、長い歴史を誇る国際現代音楽協会（ISCM）の日本支部でもある日本現代音楽協会の国際的な活動の柱の一つです。これまでこのシリーズでは、ISCMの国際音楽祭入選作を中心に世界の最新の作曲動向を映す作品を特集した演奏会、現代音楽史に名を刻んだ作曲家の代表的な大作を紹介する演奏会、そして、海外で活躍する日本人演奏家のリサイタル等といったように、作曲家ばかりでなく、現代の芸術音楽文化の創造に貢献している演奏家にも焦点を当てた企画を実施してきました。そして、本年度の「世界に開く窓」は、二つのアンサンブル——アンサンブル・ルシェルシュとLAPSアンサンブル——をそれぞれドイツとベルギーから招聘し、主として日本現代音楽協会会員作曲家がそれぞれのアンサンブルのために新たに書き下ろした作品を中心に組まれたプログラムによる演奏会です。

この二つのアンサンブルは、非常に対照的な性格をもっています。ルシェルシュは、既に

長年に亘ってヨーロッパの現代音楽シーンをリードしてきた実績をもち、高い評価を得ているグループです。このグループが基本的に伝統的な楽器のアンサンブルであるのに対して、LAPSは、今日急速な発展をみせている電子テクノロジーを十二分に活用して新たな作曲分野を切り拓く新進気鋭のアンサンブルとして知られています。こうした多様性は、アンサンブルに新たな作品を提供する作曲家たちに幅広い音楽探究の場をもたらすでしょう。

これらの演奏会は、日本の作曲家たちにとって、ヨーロッパの演奏家と直接協働する機会になるだけでなく、その作品が、それらの演奏家たちを通じて海外にも広く知られるようになる可能性を開くに違いありません。国や文化の違いを超えたこうした交流による深い相互理解こそが、人類に平和をもたらす。偏狭なナショナリズムが世界のあちこちで力を揮い始めたこの不穏な時代にあって、その想いを一層強くします。

2023年2月

〈世界に開く窓 欧州のアンサンブル〉

① アンサンブル・ルシエルシュ来日公演

2023年2月11日〔土〕 18:30開場 19:00開演

東京オペラシティリサイタルホール

- ① 伊藤 彰／薄墨色の技法
作曲 2022年／初演 b-cl, vn, va, vc
 - ② 森田泰之進／雲に聴く
作曲 2022年／初演 cl, vn, vc
 - ③ マールトン・イッレス／サイコグラムII「レットゴージュ」
作曲 2015年／日本初演 cl
 - ④ 深澤倫子／ルフレII バスクラリネット、ヴァイオリン、ヴィオラとチェロのための
作曲 2022年／初演 b-cl, vn, va, vc
- 休憩——
- ⑤ 福井とも子／ダブレット + 1
作曲 2012年 cl, vn, vc
 - ⑥ ヘルムート・ラッヘンマン／第2弦楽三重奏曲「メ・ザディウ」
作曲 2021/2022年／日本初演 vn, va, vc

アンサンブル・ルシエルシュ

岡 静代 (クラリネット)

メリーズ・メリンガー (ヴァイオリン)

ソフィア・フォン・アッツインゲン (ヴィオラ)

オーサ・オーカベルク (チェロ)

主催：特定非営利活動法人日本現代音楽協会 (国際現代音楽協会日本支部)

助成：芸術文化振興基金 

公益財団法人東京都歴史文化財団 アーツカウンシル東京 

後援：一般社団法人日本音楽作家団体協議会

A Window open to the World

① Ensemble Recherche in Japan

Saturday 11 February 2023, 19.00

Tokyo Opera City Recital Hall

ITO Akira/ **The Art of Ash** ①

2022, premiere *b-cl, vn, va, vc*

MORITA Yasunoshin/ **Listening to Clouds** ②

2022, premiere *cl, vn, vc*

Márton ILLÉS/ **PSYCHOGRAMM II "RETTEGŐS"** ③

2015, Japan premiere *cl*

FUKAZAWA Michiko/ **Reflet II** ④

2022, premiere *b-cl, vn, va, vc*

— pause —

FUKUI Tomoko/ **Doublet + 1** ⑤

2012 *cl, vn, vc*

Helmut LACHENMANN/ **Mes Adieux** ⑥

2021/2022, Japan premiere *vn, va, vc*

ENSEMBLE RECHERCHE

OKA Shizuyo, *clarinet*

Melise MELLINGER, *violin*

Sofia von ATZINGEN, *viola*

Åsa ÅKERBERG, *violoncello*

Organization: Japan Society for Contemporary Music (ISCM Japanese Section)

Sponsorship: Japan Arts Fund

Arts Council Tokyo (Tokyo Metropolitan Foundation for History and Culture)

Cooperation Company: Japan Federation of Authors and Composers Association (fca)



〈世界に開く窓 欧州のアンサンブル〉

① アンサンブル・ルシェルシュ来日公演

ENSEMBLE RECHERCHE in Japan

ご挨拶

日本現代音楽協会国際部長

制作: 福井とも子

本日は、ご来場いただき、誠にありがとうございます。

本年度の「世界に開く窓」は、ドイツからアンサンブル・ルシェルシュと、ベルギーから LAPS アンサンブルを招聘することになりました。ヨーロッパを中心に活躍するこれら2つのアンサンブルには、それぞれ1人ずつ日本人メンバーが含まれています。ルシェルシュのクラリネット奏者岡静代さんと、LAPS のピアニスト粕谷奈芳さんです。彼らの存在は、日本にいる作曲家たちにとってとても大きな励みになり、またこうした企画をするときの大きな助けとなることは言うまでもありません。今回多大なご協力をいただいたお二人には、心より感謝申し上げます。

さて、コロナ禍のために2年遅れとなったルシェルシュ来日公演ですが、その間にヘルムート・ラッヘンマンがルシェルシュのための弦楽三重奏曲を完成させました。待望のラッヘンマン最新作を日本で、しかも初演者であるルシェルシュの演奏で聴くことができるのは、2年待ったご褒美かもしれないと思っています。現音会員の新作とともに、お楽しみいただければ幸いです。

最後になりましたが「世界に開く窓」は「ISCM の夕べ」に引き続き、現音国際部が行ってきた演奏会です。現音会員の湯浅譲二氏が創設・命名し、そして同じく現音会員であった松平頼暁氏が、長い期間監修をされました。非常に残念なことに、松平氏は今年1月にご逝去されましたが、先駆者の後に続き我々も、海外との交流を大切にしていきたいと思えます。

①



伊藤 彰
薄墨色の技法

作曲 2022 年 / 初演

ITO Akira
The Art of Ash
2022, premiere

近年の私の創作の関心は「素材と形式」にあります。それは作曲上のテクニックへの関心というよりは、むしろ「音を聴く」ことへの関心とも言えるかもしれません。さらに《薄墨色の技法》では、「音の響きの状態をどのように体験するか」ということがテーマになっています。なお本作は、ある音楽家のある作品に対する以下の言葉からインスピレーションを得ています。

鮮やかな色彩を避け、代わりに薄い灰色が無限に続く。
…私は灰色が好きだ。

Profile ▶ 1991 年福岡県北九州市生まれ。国立音楽大学院修士課程作曲専攻を経て、同大学院後期博士課程音楽研究科創作領域満期退学修了。第 33 回現音作曲新人賞、併せて聴衆賞受賞後、交換留学生としてカールスルーエ音楽大学に留学。井上郷子氏（ピアニスト）や本條秀慈郎氏（三味線奏者）、川島素晴氏（100 均グッズ奏者）からの委嘱、アンサンブル・ルシエルシュ×日本現代音楽協会共同プロジェクトへの参加、山田唯雄氏（ギタリスト）、及びアンドリュー・ホスラー氏（サクソフォニスト）のアルバムに作品が収録されるなど、多方面へと活動を展開している。2022 年 ACL ニュージーランド大会「ACL 青年作曲賞」（クライストチャーチ）第 2 位。ミュージック・フロム・ジャパン 2023 年音楽祭に招聘作曲家として参加予定。作曲を菊池幸夫、北爪道夫、川島素晴、マルクス・ヘヒトレ、音楽理論を今村央子、ピアノを井上郷子、音楽学を白石美雪、吉成順、中田朱美の各氏に師事。

②



森田泰之進
雲に聴く

作曲 2022 年 / 初演

MORITA Yasunoshin
Listening to Clouds
2022, premiere

雲の脈拍を、その雲の原に
耳をあてて聴く。

Listen to clouds' pulse
by putting your ear
on the clouds' stomach.

Profile ▶ 作曲を松平頼暁、Frédéric Durieux の各氏に師事。2003 年日本交響楽振興財団作曲賞特別奨励賞、2009 年ヴァレンティノ・ブツキ賞（イタリア）、2013 年 ISCM 世界音楽の日々（ウイーン）入選、2017 年 ISCM 世界音楽の日々（ヴァンクーヴァー）招待作曲家。日本現代音楽協会理事。「森田 音輪」→検索

③

マールトン・イッレス サイコグラムII「レットテゴージュ」

作曲 2015 年 / 日本初演

Márton ILLÉS
PSYCHOGRAMM II "RETTEGŐS"
2015, Jaapan premiere



シリーズ最初の作品、《Psychogramm I 〜ピオラのための (2013/16)》を書くに当たり、イッレスはピオラを徹底的に研究し、驚くべき多彩な音色の可能性を見出した。クラリネット奏者との親交があり、自らもこの楽器を演奏するイッレスは、《Psychogramm II》でも同様のアプローチを試みた。奏者にとってはかなり苛酷な方法ではあるが、通常の奏法と違う運指を多用し、アンダーブローとオーバーブローを駆使して、クラリネットの新しい音色の世界を作ろうとしたのである。

“Rettegös”とは、ハンガリー語で「最も深い恐怖」を表すが、それは単に深刻なだけではなく、どこかユーモラスな感情も含んでいる。これは、感情の強さやタイプが様々である恐怖の状態を観察したもの（サイコグラム）についての曲である。

Profile ▶ ブダペスト出身のイッレス（1975）は、ピアノ、作曲、打楽器をハンガリーのジェールで学んだ。その後チューリッヒ音楽院や、バーゼル音楽大学などでピアノを学び、1998年にソロのディプロマを取得。2001～2005年には、カールスルーエ音楽大学でウォルフガング・リーム等に作曲を師事し、ドイツを中心に作曲家として活躍している。ジーマンス奨励賞（2008）、ヒンデミット賞（2008）、ローマ賞（2009）、南西ドイツ放送局オーケストラ賞（2018）等々、多数の作曲賞を受賞している。現在はリスト音楽院で教鞭を取っている。

訳：福井とも子

④

深澤倫子 ルフレII バスクラリネット、ヴァイオリン、ヴィオラ とチェロのための

作曲 2022 年 / 初演

FUKAZAWA Michiko
Reflet II
2022, premiere



ルフレ (reflet) とは、フランス語で「反射したもの」「反映するもの」という意味である。

この作品では、クラリネットの響きが、他の弦楽器に反射反映されていく様を表現したかった。掴めそうで掴めない、曖昧だがキラキラしているようなものが好きだ。それらの表現のために高次倍音などの特殊奏法で音色に変化をつけた。時間の経過とともに、音列の圧縮と減圧を繰り返しながら音楽が進んでいく。

Profile ▶ 兵庫県出身。2017年 ISCM 世界音楽の日バンクーバー大会、2012年アヴァンティ夏季作曲講習会（フィンランド）をはじめ、リトアニア、イタリアなど、国内外で作品発表をする。そのほか、ヴィスビー作曲センター（VICC）レジデンス（スウェーデン）、イタリア・アッシジにてエレクトロコンサートを企画するなど様々な活動を行う。代表作は、弦楽オーケストラのための”レンミンカイネンの母”（rev.2017）、プリズム（2006）、月の光 -P.ヴェルレーヌの詩による-（2014）などがある。2003年パリ・エコール・ノルマル音楽院、2014年アヌシー地方音楽院、各作曲クラス修了。

⑤



福井とも子
ダブルット + 1

作曲 2012 年

FUKUI Tomoko
Doublet + 1
2012

これまでに同属楽器デュオの為の《doublet》を4曲書いている。本作品は、第1曲目の《doublet》～Vn & Vc (2010 武生国際音楽祭委嘱)に、後からクラリネットを加えたものである。

このシリーズでは、2人の奏者が常に緊密な関係、非常に緊迫した状態を継続することを目指す、クラリネットが加わってもその傾向は変わらない。曲は、縦の響きを中心にした部分と、横の運動性を重視した部分とが変化しながら繰り返される。

doublet には、一対、一組といった意味があるが、ルイス・キャロル (不思議の国のアリス著者) が考案した言葉遊びゲームと同じタイトルであったこと、さらにこの作品で用いた1音ずつの変換による音型のリメイクというゲームのような手法が共通していたことは、作曲後に知ったことである。

Profile ▶ダルムシュタット夏期現代音楽講習会、ベルリンメルツムジーク、シュトゥットガルトエクラ音楽祭、バルトークフェスティバル、ヴェネツィアピエンナーレ、武生国際音楽祭等々から招待や委嘱を受ける。ISCM (国際現代音楽協会) 香港大会、同クアアチア大会、同オーストリア・スロバキア大会に入選等。フォンテックより作品集 CD が発売される。2001 年より現代音楽演奏団体 next mushroom promotion のプロデュースを手掛け、第5回サントリー音楽財団佐治敬三賞を受賞。2018年アジア人女性として初めて ISCM の理事に就任、現在に至る。

⑥



ヘルムート・ラッヘンマン
第2弦楽三重奏曲「メ・ザディウ」

作曲 2021/2022 年 / 日本初演

Helmut LACHENMANN
Mes Adieux
2021/2022, Japan premiere

©ISHIZUKA Jun'ichi

プログラムノートに限らず、作曲家が作曲したばかりのものを紹介することは、特に聴衆が不慣れな場合、誤解を招くと認識すべきです。作曲家は周囲に対して、或いは社会に対して何も言うことはない、作曲家は自分のヴィジョンに照らして創作に臨んでいるのです。そうして作られたものは、どのような聴き手に対しても——少なくとも作曲家自身に対しては——、本人が思っている以上に「語る」のです。もしどうしても作品の紹介を、と言うのなら…。

この2番目の弦楽三重奏曲は、私の他の作品と同様に、1969 年以来発展させてきた私の作曲語法である「楽器によるミュージック・コンクレート」の特徴を失うことなく、それをさらに開放しようと試みた結果です。「楽器によるミュージック・コンクレート」では、それまでと異なった方法で、音の物理的エネルギーを音楽の知覚の中心に置いたため、新しい音楽の概念そのものを危うくしました。今回の作品では、このような未知の世界だけではなく既知の世界も取り入れて進んでいくことが課題でした。聴くことは聴衆を、そして自分自身をも観察することです。この新しい弦楽三重奏曲では、自分自身の音楽に対する自覚と作品の構造との矛盾の中で、慣れ親しんだものと新しい光によって変化したものとが衝突せず、心地よく出会うことを望んでいます。(ヘルムート・ラッヘンマン)

注：「楽器によるミュージック・コンクレート」
1940年代後半、ピエール・シェファール (仏) によって始められた、日常の騒音や自然音等を録音・加工し再構築するという電子音楽のジャンルを「ミュージック・コンクレート」と言う。ラッヘンマンは、伝統的な西洋楽器を自らの新しい楽器として捉え直し、新たな奏法による独自の音を追求した。これら楽器の「異化」によって得られた、通常の楽音ではない音を配列して音楽を構築する方法を、自ら「楽器によるミュージック・コンクレート」と呼んだ。この創作姿勢は、1969～70年に書かれたチェロ独奏の《Pression》、クラリネット独奏の《Dal Niente》、ピアノ独奏の《Guero》などで確立された。

ヘルムート・ラッヘンマン

Profile ▶ 1935年ドイツ、シュトゥットガルトに生まれる。現代音楽シーンにおいて、世界が注目する最も重要な作曲家の一人である。1955-58年、シュトゥットガルト音楽大学にてピアノ、作曲理論、対位法を学び、その後ノーノやシュトックハウゼンに師事した。60年代前半からヴェネツィア・ビエンナーレやダルムシュタット国際現代音楽夏期講習会などで作品を発表。セリエルな音の組織化から出発したラッヘンマンの創作は、60年代後半になって、より新しい音楽語法を追求するようになる。あらゆる伝統的な楽器奏法を自分独自のものに「異化」し、そして徹底的にそれらを構造化するというのはラッヘンマンの一貫した創作の態度である。オペラ「マッチ売りの少女」は、アンデルセンの童話を、社会から疎外された人の物語として捉えた話題作で、1997年ドイツの「最優秀世界初演作品」「最優秀上演作品」に選ばれ、その後も世界各地で再演の機会を得ている。これまでにシュトゥットガルト音楽大学、バーゼル大学、ハノーファー音楽大学、ハーバード大学等々で教鞭を執る。世界各地の主要な音楽祭のテーマ作曲家として取り上げられており、日本では1994年に秋吉台国際現代音楽セミナー & フェスティバル（細川俊夫監修）に招聘されたのを初めに、その後度々音楽祭やレクチャーのために来日している。2000年に「マッチ売りの少女」が演奏会形式として日本初演、2003年にサントリーホール国際作曲委嘱シリーズで「オーケストラの為の書」が世界初演されている。ハンブルク市バッハ賞（1972）、エルンスト・フォン・ジューメンス音楽賞（1997）、ロンドン・ロイヤルフィルハーモニック協会賞（2004）、国際アンデルセン賞（2016）等々受賞歴多数。

演奏者紹介

アンサンブル・ルシエルシュ ENSEMBLE RECHERCHE www.ensemble-recherche.de

1985年創立以来、500を超える作品の初演を手がけてきたドイツ有数の演奏家団体である。同時代の、特に現代音楽の発展において大きな役割を担い、常に現代音楽シーンを牽引し続けてきた。8人のメンバーはそれぞれがソリストとして活躍できる実力を持っているが、また一方で、学校やセミナーなどで講師を務めるなど、指導者としての資質も備えている。演奏能力のみならず、彼らの音楽性は国内外で高く評価され、ヘルムート・ラッヘンマン、サルヴァトーレ・シャリエーノ、ジェラルド・グリゼイ等々の大家から若手まで、多くの作曲家がルシエルシュのために新作を書いている。



古典的なものから現代に至るあらゆるスタイルの音楽に加え、1700年以前の音楽の現代における再演等、レパートリーは多岐に渡る。ダルムシュタット、ヴィッテン、ドナウエッシンゲン、ザルツブルグ、ルツェルン、プラハ、ワルシャワ等々、発足以来、世界各地の名だたる音楽祭に招待されている。発売されたCDは50枚以上あり、ドイツ批評家賞他、国際的な賞を多く受賞するなど、常に第一線を走り続けている。

特定非営利活動法人日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部)入会のお誘い

日本現代音楽協会(通称 現音)は1930年に「新興作曲家連盟」として発足し、以来、音楽文化の創造と、作曲家の社会的地位の確立を目的として、創作の振興、現代音楽の普及、現代音楽の国際交流、人材の育成等を推進してきました。また、50を超える国や地域に支部を持つ世界唯一の作曲家の団体「国際現代音楽協会(ISCM)」の日本支部としての活動も行っており、毎年、各支部持ち回りで開催される〈世界音楽の日々〉音楽祭でも日本支部が推薦した作品が入選・上演されています。

現代の日本では、クラシックの演奏活動が注目を浴びている一方で、現代の芸術音楽の創造に対する一般の関心は、残念ながら決して高くありません。そのために、現代日本の作曲家たちの旺盛な創造力が次々と新しい音楽を生んでいるにも拘らず、それらの作品の演奏者や聴衆への普及が著しく滞っています。

こうした現状を受けて、現代音楽作曲家の創造を刺激・促進し、同時に、演奏家と聴衆の関心を高める活動を積極的に行うことが不可欠だと考え、2019年4月、特定非営利活動法人として新たな一歩を踏み出しました。法人化に伴い、**作曲家ではない方も会員となることが可能になりました**。これまでの経験を踏まえ、作曲家の創作支援を基盤にしつつ、できるかぎり広範な演奏家と聴衆との協同を図り、より公益性の高い活動を推進し、現代の音楽文化発展により効果的に寄与すべく、より広く活動を行っていきます。

芸術音楽分野の作曲で活躍を目指している若手作曲家の皆さん、すでに作曲活動を積み上げてこれながらも、さらなる活動の場の拡大や、国内外の現代音楽の情報の共有に必要性を感じておられる作曲家の皆さん、そして同時代の芸術音楽を愛好する皆さん、特定非営利活動法人日本現代音楽協会(現音)に入会しませんか。どうぞ、私たちと一緒に現代の芸術音楽シーンを支え、盛り上げる仲間になってください。

▼会員の種類

●正会員(年会費4万円/36歳以上)

主催演奏会やレクチャーなどに無料で入場できるほか、総会等会議での議決権、理事等役員選挙の選挙権、被選挙権などを得られるほか、会報やメールマガジンなどをお送ります。

●ユース正会員(年会費2万円/35歳以下)

会費以外は上記の正会員と同様。年度更新時(4月1日)の年齢が36歳に達していた時点でユース正会員の資格は終了し、自動的に正会員に移行します。

□会友(年会費1万円)

主催演奏会やレクチャーなどに無料で入場できます。

作曲作品発表資格について

協会主催・共催する演奏会等において自作品の発表を希望する会員には「作曲作品出品資格認定審査」を設けています。正会員、ユース正会員のみが審査を受けることができ、以下の提出物が必要です。

- ・ 所定の申込書
- ・ 自作の作品スコア2曲以上、楽譜がない作品の場合には、音源等。できるだけ編成の違うものが望ましい。
- ・ 作品が演奏された公開演奏会のチラシ等のコピー

審査は審査委員会が行い、審査委員会は理事全員によって構成されます。一度資格が認定されると、在籍中、同資格は自動的に継続されます。

■お申込み・お問い合わせ・資料お取り寄せ

特定非営利活動法人日本現代音楽協会 〒141-0031 東京都品川区西五反田7-19-6-2F

TEL: 03-6417-0393 FAX: 03-6417-0394

e-mail: gen-on1930@jscm.net web: www.jscm.net

〈世界に開く窓 欧州のアンサンブル〉

②LAPSアンサンブル来日公演

2023年3月2日[木] 18:30開場 19:00開演

豊中市立文化芸術センター小ホール

- ① 諸橋玲子／Nue
作曲 2023 年／初演
- ② 北條美香代／氷面鏡 ～ピアノとエレクトロニクスのための～
作曲 2022 年／初演
- ③ 福井とも子／Nobody walks much faster than I do.
作曲 2023 年／初演
- ④ 田口雅英／ピアノとラップトップの為の「時の泡沫」
作曲 2022 年／初演
- ⑤ 南川弥生／Crystallizing... for Piano and electronics
作曲 2022 年／初演
- ⑥ 宇野文夫／フルーツとピアノのための二重奏曲 LAPSヴァージョン
作曲 1984 年／新版作曲 2022-23 年／新版初演
—— 休憩 ——
- ⑦ クロード・ルドゥ／A walnut for Emi
作曲 2018/2022 年 改作初演
- ⑧ 成木理香／水の廻廊 ～ピアノとラップトップのための
作曲 2022 年／初演
- ⑨ 杉野智彦／聴常現象Ⅱ-領域外- ピアノとラップトップのための
作曲 2022 年／初演
- ⑩ 門脇 治／laps-lazuli
作曲 2023 年／初演
- ⑪ 増田建太／Autograph
作曲 2022 年／初演

LAPSアンサンブル

ジル・ドヌー（ラップトップ）

萩谷奈芳（ピアノ）

クロード・ルドゥ（作曲）

主催：特定非営利活動法人日本現代音楽協会（国際現代音楽協会日本支部）

助成：芸術文化振興基金 

後援：大阪音楽大学同窓会《幸楽会》、神戸学院大学

日本電子音楽協会、一般社団法人日本音楽作家団体協議会

A Window open to the World

② LAPS Ensemble in Japan

Thursday 2 March 2023, 19.00
Toyonaka Performing Arts Center Small Hall

MOROHASHI Reiko/ **Nue** ①
2023, premiere

HOJO Mikayo/ **Himokagami for piano and Electronics** ②
2022, premiere

FUKUI Tomoko/ **Nobody walks much faster than I do.** ③
2023, premiere

TAGUCHI Motohide/ **"Ephemeral Bubbles of Time"** for piano and laptop ④
2022, premiere

MINAMIKAWA Mio/ **Crystallizing...** for Piano and electronics ⑤
2022, premiere

UNO Fumio/ **Duo for Flute and Piano, LAPS version** ⑥
1984/New Version 2022-23, premiere

— pause —

Claude LEDOUX/ **A walnut for Emi** ⑦
2018, rev.2022, premiere

NARIMOTO Rica/ **Water Corridor** for piano and laptop ⑧
2022, premiere

SUGINO Tomohiko/ **Para-aural Phenomena II** - outside of ambit - ⑨
2022, premiere

KADOWAKI Osamu/ **laps-lazuli** ⑩
2023, premiere

MASUDA Kenta/ **Autograph** ⑪
2022, premiere

LAPS ENSEMBLE

Gilles DONEUX, *laptop*

MOMITANI Nao, *piano*

Claude LEDOUX, *composer*

Organization: Japan Society for Contemporary Music (ISCM Japanese Section)

Sponsorship: Japan Arts Fund

Cooperation Company: Japan Federation of Authors and Composers Association (fca)

Osaka College of Music graduate's association "KOUGAKUKAI"

Kobe Gakuin University

Japan Society for Electronic Music

〈世界に開く窓 欧州のアンサンブル〉

②LAPSアンサンブル来日公演

LAPS Ensemble in Japan

ご挨拶

日本現代音楽協会国際部長

制作:福井とも子

本日は、ご来場いただき、誠にありがとうございます。
日本現代音楽協会（現音）の関西会員が中心となり実施してきた企画「現音 in 関西」は、今回で第9回となります。これは毎回1人の演奏家（または一つのグループ）に、楽器についてレクチャーをして頂き、そこで得た知識などを参考に、その演奏家のために新しい曲を書くというものです。この度9回目にして初めて海外から演奏家を招聘することができました。レクチャーは約1年前に、彼らの本拠地ベルギーから Zoom で生配信をしていただきました。

今年この「現音 in 関西」は2月に東京オペラシティで開催される「アンサンブル・ルシェルス（ドイツ）来日公演」と合わせて、現音が長らく行ってきた「世界に開く窓」という企画に組み込まれました。海外と交流しようというのは、現音の一つの信条でもあります。世界では日々様々なことが起こりますが、こういった交流が穏やかに行われる世の中であってほしいと願うばかりです。

ベルギーの LAPS（ラップス）アンサンブルですが、最大の特徴は名前の通り、Laptop（ノートパソコン）を操作するメンバー3人が、8人の楽器メンバーと同じ舞台に立ち、共に演奏して音楽を作るというスタンスにあります。つまり彼らのレパートリーの多くがエレクトロニクス音楽だということになります。現在ヨーロッパでも日本でも、若い世代を中心にエレクトロニクス音楽が非常に盛んですが、一方で世代に関わらず、エレクトロニクスを始めたくてもきっかけを掴めず躊躇しているという人達が多くいるのも事実です。そこで今回 LAPS には入門編として、広く知られているソフト Max/MSP の、非常に初歩的なことをレクチャーして頂きました。限られた音響技術（数種類のエフェクト）とピアノ1台で何ができるか、という我々の挑戦を是非お聴きいただきたいと思います。

①

諸橋玲子

Nue

作曲 2023 年 / 初演

MOROHASHI Reiko

Nue

2023, premiere



Nue (鵺) とは、日本に昔から伝わる妖怪で、「不気味な声で鳴く得体の知れないもの」として平家物語にも登場します。毎夜丑三つ時になると御所は黒雲に覆われ、この得体の知れない声に天皇は悩まされ病になる。そこで弓の達人に命じ鳴き声の主を退治すると、御所に静けさが戻り、天皇も回復したという。この物語をもとに作られた能があります。能では鵺の亡霊と旅の僧という「異界」と「此界」の生きる世界も時間も違う存在の両者が中心となり進められるのだが、「時間の経過とともに物事が進む」のではなく、異世界と現実、過去と現在を行き来しながら物語が進みます。またシテ(鵺)が、自分を退治した人物になったり、鵺になったりと一人で双方を演じる場面があり、今ここで観聞きしていることは誰のことか、現在なのか過去なのか、次第にその「異界・此界」という空間、時間の境界を超え解放されていくようです。以前から心惹かれる能の空間・時間の流れ。「Nue」で、ピアノとエレクトロニクスという異種の存在が、空間や時間の境界を解き放ち、双方が交錯する世界を創り出すことができればと思っています。演奏にあたり、ご尽力下さいました Gills さんと奈芳さんに心よりお礼申し上げます。

Profile ▶ 大阪音楽大学大学院作曲専攻修了。日本・東洋の哲学・美学をベースに、あたかも何もないかに見える日本的空間に潜む内なる声の、静的でありながら凝縮した激しいエネルギーをもつ音の宇宙を追求、創作している。作品はイタリア、ドイツ、オランダ、ルーマニアなどでも紹介され、また楽譜、CD が JILA 出版、マザーアース出版、ドイツなどからリリースされている。日本現代音楽協会会員。

②

北條美香代

氷面鏡～ピアノとエレクトロニクスのための～

作曲 2022 年 / 初演

HOJO Mikayo

Himokagami for piano and Electronics

2022, premiere



「氷面鏡 (ひもかがみ)」とは、氷の表面に風景が写って、鏡のように見える様子を言う。中世の歌人の造語であると言われていたが、万葉集の「紐鏡」の誤解から起こったものだという説もある。「紐鏡」は儀式などに使われた鏡である。「紐」も「氷」もつまりとけるものであり、歌や句では「解く」を導く序詞としても用いられる。このように様々な意味を持つ言葉のように、ピアノとラップトップ、それぞれが独立した楽器として織りなすアンサンブルによって、響きが変容していく様子を表現できるのではないかと考え、今回この作品を創作した。創作するにあたっては、自身が 2006 年に創作し、思い入れのあったピアノソロ曲「flux」よりいくつかテーマを引用し、それを元に別の作品として創り上げた。

Profile ▶ 東京藝術大学大学院博士後期課程修了。学位を取得。同大学学部在学中に安宅賞を受賞。「石川の三文豪によるオーケストラ歌曲作品コンクール」優秀賞、ほか受賞多数。チェロとアコーディオンのための「かぎろひ」はアコーディオン奏者大田智美のデビューアルバムに収録されている。Composer Group Cue メンバー。コジマ録音より「Cue Works」(ALCD-70)、「Composer Group Cue × 大田智美 現代アコーディオン・ソロ作品集」(ALCD-90) をリリース。現在、奈良教育大学教育学部教授。日本現代音楽協会、関西現代音楽交流協会会員。

③



福井とも子

Nobody walks much faster than I do.

作曲 2023 年 / 初演

FUKUI Tomoko

Nobody walks much faster than I do.

2023, premiere

ご存知のように「鏡の国のアリス」には、ナゾナゾのような言い回しやナンセンスな会話が、至る所に出てくる。タイトルの“Nobody walks much faster than I do.”は、同書からの引用。“Nobody ~”とは本来「誰も～ない」と訳すが、「鏡の国のアリス」の中で王様は「“誰も”さんは、私よりずっと速く歩く」と言っていて話を進める。

ところで「名は体を表す」という言葉があるが、まさにこの作品タイトルは、曲の本質を表している。「私」を「ピアノ」に置き換えて、「“誰も”さんはピアノより速く歩く（誰もピアノより速く歩かない）」というのが、この作品全体の構造を示すのである。

Profile ▶ ダルムシュタット国際現代音楽夏季講習会、ベルリンメルツムジーク、エクラ音楽祭、ヴェネツィアビエンナーレ、バルトークフェスティバル、アルスムジカ音楽祭、武生国際音楽祭等々から招待や委嘱を受ける。ISCM World Music Days 音楽祭香港大会、同クロアチア大会、同オーストリア・スロバキア大会に入選等。フォンテックより作品集 CD が発売されている。2001 年より現代音楽演奏団体 next mushroom promotion を主宰し、関西を中心に稀少なプログラムの演奏会を展開。第 8 回公演は、第 5 回サントリー音楽財団佐治敬三賞を受賞。2018 年より、アジア人女性として初めて ISCM（国際現代音楽協会）の理事を務める。

④



田口雅英

ピアノとラップトップの為の「時の泡沫」

作曲 2022 年 / 初演

TAGUCHI Motohide

“Ephemeral Bubbles of Time” for piano and laptop

2022, premiere

コロナ禍に入ってから様々な新しい試みを始めたが、その一つが 1～3 分程度の小曲を書くことであった。そのような小曲には単純な素材と簡潔な構造が適しているように思え、長い曲の作曲とは異なったアプローチをすることができた。

その経験から、この作品では、4 曲の小曲（各 1 分程度）による 1 つの作品を作ることを試みた。それぞれの小曲は、音による俳句や短歌、あるいは時間上のはかない泡沫のようでもある。

第 4 曲では、ドイツのフライブルクを拠点とする Kompass Ensemble（ヴァイオリン・ピアノ・打楽器）の Insekten という企画の為に作曲した「静かなモザイク」（2020 年 9 月同地で初演）を、原形に近い形で用いている。この曲では、笙の合竹に着想を得た和音が素材の要になっており、第 1～3 曲もその基本的性格を共有しつつ、それぞれ異なった展開や性格を持つように作られている。

ラップトップパートは、ピアノパートの音響を変化させ、機能が拡張された第 2 のピアノパートのように働く。可能性を最大限に使用するのではなく、作品に必要な可能性のみを選び取るように心がけた。

Profile ▶ 松永通温・松尾祐孝、早川和子の各氏に師事。1999 年第 16 回現音作曲新人賞に入選し、作曲活動を始める。日本やアジアの伝統音楽の要素を自作品に反映させることに関心があり、伝統音楽の構造の応用や儀礼的要素の導入等、様々な手法を試みている

⑤



南川弥生
Crystallizing...
for Piano and electronics

作曲 2022 年 / 初演

MINAMIKAWA Mio
Crystallizing... for Piano and electronics
2022, premiere

音響学といえば、学生時代に母校が Roland/System-700 という国内初のモジュール・シンセサイザーを購入し、新しいもの好きな私は軽い気持ちで登録したのだが、音響学が苦手な上にプラグの抜き差しを恐れつつ何とか1年続け、卒業後も小品を製作した程度。

今回、LAPS のレクチャーも出来ないくせに、いや出来ないからこそ出来る様にした方が良いと参加させて頂いた。曲は昨年12月にでっちあげたが、この原稿を書いている1月下旬になっても Gills とメールで相談するも完成する実感が無い。Max は、その昔何時間もかけて音を作ったり、録音したり加工したりした作業が1台のラップトップでしかもライブで瞬時に出来るところが魅力だが、Gills におんぶに抱っこだ。初のラップトップ作品、コンサートを誰よりもドキドキして迎える事となる。こんな曲作りにお付き合い頂いた Gills と奈芳さんに心よりお礼申し上げます。

Profile ▶ 大阪音楽大学作曲科卒業。同専攻科修了。作曲を乾堯氏に師事。第5回マルセル・ジョス国際作曲コンクール第2位入賞。「第1回国際伝統音楽学会・東アジア音楽研究会議 / 上海音楽院」にて箏のための「水秘」レクチャー。日本芸術文化国際センター主催・邦楽プロジェクトにて「天道」Fl, 箏, 十七絃が奨励賞受賞。主要作品：「天飄」sax、オーケストラ「波の呼吸」「玉虫色あるいは虹色」室内オーケストラ等。大阪音楽大学講師。日本現代音楽協会、日本作曲家協議会、日本女性作曲家連盟、まほろば 21 世紀創作歌曲の会、兵庫県音楽活動推進会議等各会員。出版楽譜(株)マザーアース。

⑥



宇野文夫
フルートとピアノのための二重奏曲
LAPS ヴァージョン

作曲 1984 年 / 新版作曲 2022-23 年 / 新版初演

UNO Fumio
Duo for Flute and Piano, LAPS version
1984/New Version 2022-23, premiere

両楽器共、快速で多量の音符を奏しながら、その演奏音域が徐々に変化していきます。ピアノはアクセント、フルートは音価を長くすることによる音の強調が所々に入ります。音域は設定した最低域から最高域までを往復して完結しますが、演奏はどこから行われても良く、一巡して終了となります。音域の移動は演奏の度に異なった様相になる訳です。演奏時間はどちらも6分間ですが、両者の時間的な重なりも全く自由で、全く重ならなくても構いません。かねてからこの作品の電子音響装置とのセッションの可能性を考えており、この企画に参加いたしました。

この LAPS 版は、フルートとピアノのパートはコンピュータによる自動演奏に寄り、ピアノのアクセント部分を生のピアノ演奏で重ね、そうやって現出する音響に電子的操作を加えます。操作は、特定の周波数域を強調する操作と、遅延反復であるディレイ操作を、時間軸上で指示したダイアグラムに従います。ダイアグラムは伝統的とも言える構成感のあるものとなっています。

今回は時間制限により、両楽器をぴったり合わせて上演しますが、それでも全体像としては不確定性、つまり偶然の邂逅に寄る所が大きな音楽であります。

オリジナル版は、1984年7月大沼浩 (fl)、奥平八重子 (pf) により初演、翌85年3月に大沼と横島浩 (pf) で再演しました。

Profile ▶ 昭和 34 (1959) 年兵庫県西宮市生まれ。神戸育ち。武蔵野音楽大学大学院修了。現在神戸学院大学人文学部教授。

7

クロード・ルドゥー

A walnut for Emi

作曲 2021 年 / 2022 年 / 日本初演

Claude LEDOUX

A walnut for Emi

2021/2022, Japan premiere



この作品は、ARTONOV Festival 2018 の一環として LAPS Ensemble が行ったイベントのために作曲されたものです。LAPS アンサンブルが詩人の児玉絵美さんとのコラボレーションで、幾つかのコンサートをシリーズで行い、電子音楽と胡桃の殻を使用したパフォーマンスにより、想像の世界の旅に観客連れ出しました。電子パートには詩人の声のサンプルが含まれ、呼吸音、息づかい、儀式用のパーカッション（シンバルや鐘）、砕いた木の実の殻を割る音が混ざり合う。前半は、ピアノが震えるようなハーモニーを奏で、それをエレクトロニクスが響きを拡張し、上記のようなサンプル音が時々現れます。後半は、オーラに輝く鐘の音、星空のようなサウンドが展開されます。新たな構成を加えたボイスや吐息のサンプル音を、再び別の角度から捉えることができます。

Profile ▶ クロード・ルドゥーの作品には、断片化された今日の世界を反映した新しい音楽の交配への情熱が共鳴しています。ポピュラー音楽や非ヨーロッパの伝統と特別な関係を持つ彼の作品は様々な編成（オーケストラ、室内楽、エレクトロニクス、ソロ）のものがある。インド、カンボジア、ベトナム、日本、インドネシア、ブラジルで音楽調査を行うなど、精力的に活動している。また、IRCAM（フランス）で電子音楽を学ぶ。アルメニア、カザフスタン、カンピーナス大学、サンパウロ（ブラジル）、上海音楽院、サンクトペテルブルク音楽院で教鞭を執る。エリザベート王妃音楽コンクール 2016 のコンプレーションコンチェルト（ピアノセッション）を作曲。2005 年より、ベルギー王立アカデミー会員。
<https://ledouxclaudio.be> 訳：柗谷奈芳

8

成木理香

水の廻廊～ピアノとラップトップのための

作曲 2022 年 / 初演

NARIMOTO Rica

Water Corridor for piano and laptop

2022, premiere



この作品はある禅寺の石庭の造りにインスパイアされて作曲するシリーズの6曲目。方丈の周りに枯山水が展開されるこの石庭は、溪谷から流れ出た川が大海に至るまでが表現されている。ここでは方丈を廻廊に沿って歩きつつ溪谷から大海まで、石や岩で表現された水の流れを追う。溪谷から大海に至るまで、その時々水が発するであろう音と風情のイメージをピアノに置き換えていったが、水の様子をピアノで表現したというよりも、そのイメージを元に作った音素材をピアノの音色と Max で変化させた音色とで紡いでいった。

Max を使用するのは初めてのことで、実際に音を出しながら作曲を進めた。その過程で確認した音を「本当の水みたいな音だな」と思った瞬間があったため、頭の中で方丈の周りの石庭に水を流してみた。そうしたら目の前に水そのものが廻廊となって巡っていく映像が広がったのでこのタイトルをつけた。

Profile ▶ 愛知県立芸術大学音楽学部作曲専攻を首席で卒業、桑原賞受賞。同大学院修士課程、博士後期課程修了。博士号取得。入野賞、Iron Composer Competition 第3位（USA）、愛知県芸術文化選奨新人賞などを受賞。Asian Cultural Council（USA）フェローに選出され招聘を受けてニューヨークに居住しアメリカの現代芸術研究に従事した。近年はクロスジャンルをテーマに作曲している。愛知県立芸術大学准教授。金城学院大学、名古屋芸術大学各非常勤講師。

9



杉野智彦
聴常現象II-領域外-
 ピアノとラップトップのための

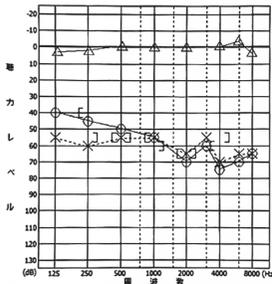
作曲 2022 年 / 初演

©ISHIHARA Yuika

SUGINO Tomohiko
Para-aural Phenomena II - outside of ambit -
 2022, premiere

私は難聴だ。普段は補聴器をつけているが、補聴器を着用していても楽器によっては聴こえにくい音がある。下記のグラフは、私のオーゾグラムである。このグラフからわかるように、特に 1000Hz 以上の周波帯域の聴こえについては、健常者（△線）と大きな差がある。この周波帯域には、楽器の倍音が多く含まれるため、楽器の音ですら健常者とは聴こえが異なる。

本作では、私の聴こえにくい音に焦点をあてて作曲した。1000Hz 以上の周波帯域をこの曲の中心とすることで、聴こえにくい音を抜き出し、それらの音によって全体を構成した。



Profile ▶ 愛知県立芸術大学大学院 作曲領域在学中。作曲を柴田恭男、久留智之、Andorian Pertout、安野太郎の各氏に師事。電子音楽を福田拓人氏に、指揮及びスコアリーダーディングを久保田昌一氏に師事した。第 54 回 愛知県立芸術大学定期演奏会、第 53 回 愛知県立芸術大学卒業演奏会、第 47 回 及び 第 48 回 JSSA 先端芸術音楽創作学会研究会において作品を発表。1 月 9 日に個展「聴常現象 Vol.1」を開催した。

10



門脇 治
laps-lazuli

作曲 2023 年 / 初演

KADOWAKI Osamu
laps-lazuli
 2023, premiere

max/map プログラムは高度な音響処理が可能であるが、更に汎用性や柔軟性も大きな魅力である。LAPS からいただいたパッチにはスペクトルディレイも含まれており、ピアノの音色を劇的に変化させることができる。それは鉱物の輝きを連想させ、よってユニット名と青金石をかけて「laps lazuli」と題してみたが、実際は音響分析的なアプローチではなく、生演奏とコンピュータプログラムの即興的な掛け合いが、この作品（と呼ぶことができればだが）の目的である。

Profile ▶ 1964 年宮城県塩竈市生まれ。作曲を故本間雅夫、吉川和夫の両氏に師事。平成 10 年度宮城県芸術選奨新人賞、平成 15 年度文化庁舞台芸術創作奨励賞入選、ISCM ニュージーランド大会入選。作品はピアノ曲から管弦楽、電子音楽まで幅広い。日本作曲家協議会、日本現代音楽協会、日本電子音楽協会、宮城県芸術協会各会員。

II



増田建太

Autograph

作曲 2022 年 / 初演

MASUDA Kenta

Autograph

2022, premiere

作曲では、その過程の初期段階で(下書きとしての)自筆譜を作成するケースが多い。そこには後に永久に削除されるものや楽譜以外の要素も含まれ、音符さえ無い場合もあるだろうが、常に創造の原点を垣間見せている。そしてそのほとんどを他者が目にすることは無い。

それぞれが個性的で時に全く異なる芸術を産む「現代音楽」においても、自筆譜、或いはそれに類する何かが存在するケースが多い(興味深いことに、何も無いこともあるが)。この作品演奏は、そういった自筆譜が見せる広大な世界の深淵を会場の皆様にお伝えする、言わば伝達行為である。その音楽は時にパラレル且つ多層的であって、本作の楽器編成のようであり、人生のようである。

Profile ▶ 大阪教育大学卒業。同大学院修了。第20回奏楽堂日本歌曲コンクール作曲部門畑中良輔賞。第4回ドヴォルザーク国際作曲コンクール第3位。現音作曲新人賞第32回入選、第33回富樫賞。第15回弘前桜の園作曲コンクール第1位・下山一二三賞。第2回伊勢志摩国際作曲コンクール特別賞など他多数受賞。アジア作曲家連盟韓国支部国際会議 & フェスティバルにてレクチャー(2016年)。海外各地の現代音楽祭で作品発表。作曲を物部一郎、北川文雄、猿谷紀郎、Klaus Langの各氏に師事。日本現代音楽協会会員、日本音楽教育学会会員。現代音楽グループ「響キ前線」メンバー。実験音楽の即興演奏家として多数アルバムを発表。

演奏者紹介

LAPSアンサンブル LAPS ENSEMBLE <https://lapsensemble.be>

LAPS—Laptop & Acoustic Production System—は、ベルギーの音楽家たちによる比較的新しい団体である。アンプリファイされた楽器と3台のラップトップコンピュータとによる独自のアンサンブルを作りたいという思いから設立された。演奏家（伝統的な楽器）とエレクトロニクスパフォーマー（コンピュータ）との相互作用によって生み出される、新たな室内楽を創造することが当初のアイデアであった。作曲家で指揮者、そしてこのアンサンブルの設立者でもあるクロード・ルドゥと、ラップトップ・デュオ KNAPP メンバーのジル・ゴベール、作曲家のジル・ドヌー



らの主導により、LAPS は 2013 年、Ars Musica 音楽祭（ベルギー）で、その活動を開始した。その後も意欲的に、さまざまな作曲家への委嘱を行っている。西洋と東洋の融合をも目指す LAPS は、2015 年同音楽祭において日本の作曲家の委嘱作品を特集している。ヨーロッパの音楽祭のみならず、中国などアジア各地にも招かれている LAPS であるが、日本での活動はこの演奏会が初となる。

会 員 名 簿

2023年2月現在

名 誉 会 員

三枝 成彰	篠原 眞	坪能 克裕	松永 通温
佐藤 眞	下山一二三	福士 則夫	湯浅 讓二

正 会 員

青嶋 広志	菊池 幸夫	三枝木宏行	中島 克磨	深見麻悠子	桃井千津子
赤石 敏夫	北爪 道夫	佐藤 昌弘	中島 洋一	福井とも子	森垣 桂一
赤石 直哉	北爪やよひ	渋谷 由香	中辻早百合	福田 陽	森田泰之進
浅野 藤也	木下 大輔	嶋津 武仁	なかにしかかね	藤原 嘉文	守屋 祐介
天野 正道	木下 牧子	清水 昭夫	中村 明一	北條 直彦	諸橋 玲子
池田 悟	木山 光	清水 研作	中村 滋延	北條美香代	安田謙一郎
石田 匡志	楠 知子	鈴木 純明	中村 典子	星谷 丈生	安良岡章夫
和泉 耕二	国枝 春恵	ゼミソン・ダリル	名倉 明子	堀 悦子	柳田 孝義
板津 昇龍	久保 禎	平良伊津美	成本 理香	堀切 幹夫	山内 雅弘
出田 敬三	倉内 直子	高嶋みどり	新垣 隆	蒔田 尚昊	山崎 一繁
伊藤 高明	栗原 邦子	高仲 広	西尾 洋	トーマスマイヤー=フイービット	山中千佳子
伊藤 弘之	栗本 洋子	高橋 雅光	新田 祥子	正門 憲也	山本 成宏
植野 洋美	郡司 敦	高橋 克行	二宮 毅	増本伎共子	山本純ノ介
宇野 文夫	高 昌帥	高橋 理文	二宮 玲子	松尾 祐孝	山本 裕之
梅川 令子	糺場富美子	高見富志子	野崎勇喜夫	松岡 貴史	横島 浩
梅北 直昭	甲田 潤	田鎖大志郎	野澤 啓子	松波匠太郎	菜 孝之
遠藤 雅夫	河内 琢夫	田口 雅英	野平 一郎	三上 次郎	ロクリアン正岡
大慈弥恵麻	河野 敦朗	橋 晋太郎	法倉 雅紀	水野みか子	渡辺 俊哉
大谷 千正	小島有利子	田中 範康	萩 京子	三角千恵子	
大野 和子	小林 聡	田中 均	橋本 信	見澤ゆかり	
奥田 美穂	小林 治樹	田丸彩和子	早川 和子	南 聡	
小坂 直敏	小山 和彦	塚本 一実	久田 典子	南川 弥生	
甲斐 直彦	木幡由美子	土屋 雄	久留 智之	峰村 澄子	
門脇 治	近藤 浩平	露木 正登	久行 敏彦	宮木 朝子	
金子 仁美	近藤 讓	土井智恵子	飛田 泰三	三宅 榛名	
鎌田 実	近藤 春恵	徳永 崇	平野 義久	三宅 康弘	
神長 貞行	佐井 孝彰	外山三保子	深澤 舞	宮崎 滋	
河添 達也	斉木 由美	中川 俊郎	深澤 倫子	村田 昌己	

ユース正会員

伊藤 彰	大平 泰志	谷川 倫子	松本悠理香
井上 渚	紺野 鷹生	増田 建太	柳川 瑞季

役員

理事長	近藤 譲				
副理事長	森垣 桂一	福井とも子			
事務局長	渡辺 俊哉				
理事	赤石 直哉	金子 仁美	北爪 道夫	糀場富美子	近藤 譲
	佐藤 昌弘	坪能 克裕	露木 正登	中川 俊郎	福井とも子
	福士 則夫	松尾 祐孝	森垣 桂一	森田泰之進	山内 雅弘
	山本 裕之	渡辺 俊哉			
監事	三枝木宏行	正門 憲也			

維持会友名簿

法人会友

(公財)NHK交響楽団	尚美学園大学	ブレーン(株)
(株)音楽之友社	(学)洗足学園	プロフェッショナル・パーカッション
(株)河合楽器製作所	桐朋学園大学	
国立音楽大学	日本大学 芸術学部	
(公財)サントリー芸術財団	フェリス女学院大学 音楽学部学会	

個人会友

安部 淳	古木康太郎	田原 順子	本多 健二	吉村 七重
池口 敬子	越野 修輔	戸石 文哉	前田 壽一	米田 栄子
池田 建夫	小島 順一	徳岡 紀子	松井 滋	若林みち子
池田須枝子	小島 幸雄	徳澤 姫代	松尾 信子	
伊藤 周	佐多 光春	中嶋 香	松永加也子	
井上 二葉	佐野 光司	中野 洋子	松本 静子	
岩瀬 龍太	佐山 一通	中畑 秋恵	松本 卓以	
及川 夕美	篠木 洋子	中村 和枝	間部 令子	
大須賀かおり	首藤健太郎	西崎 俊典	三浦 尚之	
大間々 昂	新海 立子	伴野 龍弥	水野佐知香	
甲斐 史子	鈴木 良	ピアノデュオ・ドゥオール	水野 淳	
勝田 聡一	瀬山 詠子	廣川 雅夫	宮澤 裕夫	
神長 祥枝	高久 暁	福田 隆	村田 厚生	
北川 暁子	高澤 穰	藤井 一興	山口 賢治	
木村かをり	田島 亘	藤本 隆文	楊 麗貞	
木村 弓	田中 信昭	北條 哲男	吉村 仁	

〈世界に開く窓 欧州のアンサンブル〉STAFF

- 企画制作: 福井とも子(特定非営利活動法人日本現代音楽協会)
 - 監修: 福土則夫(特定非営利活動法人日本現代音楽協会)
 - 舞台監督: 杉村向陽(有限会社マルス・エイ・ソル)
 - 記録録音・録画: 野中正行(響き工芸)
 - 制作進行・デザイン: 竹田知弘(特定非営利活動法人日本現代音楽協会)
-

世界に開く窓 欧州のアンサンブル

発行

2023年2月

特定非営利活動法人日本現代音楽協会(国際現代音楽協会日本支部)

〒141-0031 東京都品川区西五反田7-19-6-2F

TEL■03-6417-0393 FAX■03-6417-0394

E-mail■gen-on1930@jscm.net Website■www.jscm.net

PRINTED IN JAPAN